

1500人が福井県庁前で「知事はもんじゅの運転再開を認めるな」と訴え ～12・8「'07もんじゅを廃炉へ！ 全国集会」に参加して～

ナトリウム漏洩事故から干支が一回りして早くも12年が過ぎたなか、今にいたるまで、ずっと停止し続けている高速増殖炉「もんじゅ」。政府や日本原子力研究開発機構は、来年の10月から運転再開させようとしています。そんなことは許さないと、全国から1500人が集まった集会・デモに参加してきました。例年は白木海岸での開催でしたが、今年は、西川知事にもんじゅの運転再開への同意を認めない声を届けるために、福井市内で開催されました。



まず行われた集会では、もんじゅ監視委員会の小林圭二さんが、「もんじゅを動かしてはならない！ その3つの理由」と題して講演されました。もんじゅが軽水炉より格段に危険であることなどに加え、「国の借金が巨額に上る中で、医療、介護、生活保護など社会保障が切り捨てられようとしている。そんな状況で、巨額を投じて危険なもんじゅを動かすことは許されない」と訴えられたのには思わず頷いてしまいました。12月20日内示の来年度予算の財務省原案では、もんじゅの研究開発費に約180億円、さらにもんじゅ等を対象とした、新たな交付金15億円（＝来年度分、5年間で福井県・敦賀市・美浜町に55億円）まで準備しています。

青森の1万人訴訟原告団から参加された山田清彦さんは、六ヶ所再処理工場の本格操業に反対し、安全協定を締結するなという三村県知事宛の署名をよびかけられました。

「刈羽村を守る会」の武本和幸さんは、中越沖地震が柏崎刈羽原発に与えた影響を、写真を使って説明されました。傾いた排気筒、ダクトのゆがみ、敷地内を何本も走る地面の亀裂の写真等々…。地震が原発に与えた生々しい傷跡に、柏崎刈羽原発を二度と動かしてはならないと改めて強く感じさせられました。武本さんは報告の最後で、東電が03年には原発周辺に長い活断層があるのを知っていたと怒りをあらわにされ、新潟での経験をいかして、柳ヶ瀬断層などを抱える福井でも、全国でも耐震問題に取り組んで欲しいと訴えられました。

原子力発電に反対する福井県民会議の小木曾美和子事務局長は、1986、2002年に住民が行ったもんじゅの原子炉設置変更許可への異議申立に対し、国が21年も放置し今になって審査会を開くという、行政不服申立制度を骨抜きにするやり方に断固として抗議していきたいと怒りをあらわにされました。また、改造工事は甘い基準の安全審査の結果実施されており大事故の危険性がある、まだ損傷の探傷装置が開発されていない蒸気発生器細管損傷事故を防ぐためにも、専門家と市民が監視しなければならないと訴えられました。そして、知事に運転再開を認めさせないため、反対世論を盛り上げるためにあらゆる運動をやっていくと力強く決意を述べられました。

そのほか、原水禁やもんじゅ西村裁判をたたかう方から報告がありました。

その後街頭に出てデモへ。参加者は「来年10月の運転再開を許さない」「西川知事は運転再開を認めるな」「プルサーマル計画反対」等のシュプレヒコールをあげて通りを行進。長いデモの隊列が続き、県庁周辺のお堀を半周したかと思われるところで後ろを振り返ると、参加者が対岸の部分までずっと続いているのが見えました。参加者全員で、来年10月の運転再開は認めない！と県庁前で力強く声を上げました。

(Cy)